令和4年度

授業改善推進プラン

今年度も昨年度作成した「授業改善推進プラン」に基づき、学力向上に向けた取り組みを推進してまいりました。

コロナウイルス感染防止対策でグループ活動や話し合い活動、音楽・家庭科・体育等の実技に依然として大きな制約がかかっていますが、今年度も４月に「大田区学習効果測定」を行いました。

昨年度から新学習指導要領が実施されており、評価観点やその内容の変更から単純に前年度と結果を比較できませんが、その結果を受けて授業改善推進プランの改訂を行いました。今年度・来年度は教育研究推進校としてさらなる授業改善に取り組んでまいります。

令和4年8月

大田区立大森第四小学校

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校国語科）

１　国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取組における成果と課題

〇成果

・音読は、家庭学習として継続して行ってきたため、意欲的に取り組む児童が増えた。

・漢字テストを何度も繰り返し行うことで、少しずつ書ける漢字が増えてきた。

・「誰が何をした」「どのようなことを言った」など登場人物の行動を基に、物語の内容を正確に捉える学習を繰り返し行ってきた。児童は、それを手掛かりとしながら登場人物の気持ちを意欲的に考えようしていた。

・クロームブックを活用することにより、ローマ字で表記されたものを正しく読んだり、書いたりすることができるようになった。

・昨年度と比較すると、４、５年は全ての領域で前年度の校内正答率を上回ることができている。

取り組みにおける成果と課題

〇課題

・文章を書くときに、誤字・脱字に気付かなかったり、拗音、撥音、助詞を適切に使えなかったりする。

・漢字の習得率が悪い。漢字が読めないため、音読でもつまずくことがある。

・言葉についての知識・理解が不十分なために、文章を読んでも、十分に理解できないことがあった。テストでは、文章や問題文をしっかり読んでいないため、答え方が分からなかったり、空白になったりしてしまう。

・語彙力が乏しい。

・区の学力効果測定の結果は、いずれも区平均を約１０ポイント下回っている。領域別に見ると、４、５、６年全てにおいて「書くこと」の到達度が低い。「書くこと」の数値を区の平均と比べると、４年が約１３ポイント、５年が約１５ポイント、６年が約１２ポイント下回っている。

２　国語科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・ひらがな、カタカナ、漢字、助詞、促音、長音等の書き表し方が身に付いていない。 ・主語と述語、修飾語、指示語などについての理解や、作文や文章を書く際の句読点の位置や鍵かっこの使い方の理解が不十分である。既習事項が定着していない。	・内容を読み取れず、文章を間違って読み取ったり、何を問われているのか分からないまま読み進め、問題を解いてしまったりすることが多い。 ・話し合いでは、話し手の目的や意図に応じて、話の内容を捉えることができない。話し手の意見に対する自分の考えを話すことができない児童が多い。 ・内容の中心を明確にして自分の考えを書いたり、段落を意識して書いたりすることができていない。	・読書活動は楽しみにしている児童が多いが、ジャンルが広がらなかったり、絵だけ見て楽しんだりする児童が多い。 ・ひらがなばかりを使って文章を書く児童が多い。新しく学んだ漢字や言葉を積極的に使おうとする気持ちをもつことが難しい。

改善方針	・正しい助詞や言葉の使い方、正しい文章の書き方を身に付けさせる。 ・ひらがな、カタカナ、漢字、促音、長音などの復習を、タブレット等を活用して行い、定着させる。	・音読の工夫や動作化など様々な方法を取り入れ、文章の内容理解がより確実にできるようにする。 ・話型や聞く姿勢を提示し、話し合い活動をたくさん取り入れていく。 ・書く活動を増やし、書くことに慣れさせる。	・読書学習司書や図書館と連携し、読書の楽しさを感じさせる。 ・児童が書きたいと思う課題を設定し、文章を書くことを楽しませる。
改善策1年	・言葉を聞いて、正しくひらがなで表記できるようにする。 ・文を書くときは、助詞、促音、長音等の書き表し方に気を付けて書くことを繰り返し指導する。 ・語のまとまりや言葉の響きに気を付けて読む等、音読のめあてを示し家庭学習で音読練習を継続する。	・言葉の意味と使い方を覚え、身近なことを表す語句の量を増やしていく。 ・語のまとまりや文の構成を意識し文を書くことができるように、短文作りを取り入れる。 ・文章から場面や人物の様子を想像して読めるようにする。	・言葉遊びを通して、読むことや書くことへの意欲を高めていく。 ・単元のねらいに沿った読書活動をする。 ・学習計画を示し、学習の見通しをもたせ、学習意欲を高める。
2年	・ノートや日記の指導を通して、間違えやすい「は」と「わ」や、見落としがちな促音をしっかり指導する。 ・漢字の定着を図るため、授業でのミニテスト、家庭学習などほぼ毎日復習をする。	・「はじめ」・「なか」・「おわり」の構成を意識して文章を書かせる。 ・授業の中で友達と交代で読むなど、音読の方法の工夫をする。 ・交流する際、自分の考えと友達の考えを比べて聞くことを意識させる。	・司書による読み聞かせや本の紹介を通して、読書に対する意識や態度を高めていく。 ・友達の感想を紹介することで、いろいろな本に興味を抱けるようにする。 ・日記や本の紹介文など、児童が意欲的に取り組める課題を設定する。
3年	・漢字テストは、2 月までに習得させ、繰り返し継続して指導する。 ・語彙力や知識を増やすために、読書を大切にし、図書の時間を確保したり、まなびポケットを活用して繰り返し言語の練習をする。	・よい表現に触れさせたり、考える視点を明確にしたりして話し合ったり、読み取ったりする練習を行う。 ・自分の書いた文章を読み返し、正しい表現に直したり、よりよい文章にしたりすることができるように指導する。	・週 1 回程度、図書室に行く機会を多くとる。 ・まなびポケットのブリタニカや国語辞典を使うなどして気になったことを自分の手で調べるようにする。

4年	・文の構成を意識させ、表現されている内容を正確に把握できるようにする。 ・漢字を学習する際に、漢字の形に着目させ、部首を確認する。読書量を増やすとともに、国語辞典を用いて意味調べをすることで、語彙力を育てる。	・説明的文章を読む際は、段落の役割について考えさせるとともに、段落同士の関係を捉えさせる。 ・書く機会を増やし、文章を書くときは作文メモを用いて、文章の構成を考えさせる。	・学習した言葉を使って話したり書いたりすることができた場面を価値付け、評価する。
5年	・漢字学習は、漢字の書き方だけではなく、使い方についても重点的に指導し、文の中で使えるようにする。 ・語彙を増やし、言葉の使い方に対する感覚を意識して語句を使えるように指導する。	・自分の考えが伝わるような文章の書き方を具体的に指導する。 ・事実と感想、意見とを区別して書く方法を具体的に指導する。 ・意見文や感想文を友達と共有させることで、考えを広げるようにする。	・本の紹介や読み聞かせをしたり、読書のよさを定期的に伝えたりすることで、すすんで読書できるようにする。
6年	・漢字テストは合格点を決めて行い、合格するまで取り組む。漢字の復習テストを定期的に行い、定着を図る。 ・普段から敬語や常態、敬体を意識させ、話をしたり文章を書かせたりする。	・意見や提案など自分の考えを話したり聞いたりして、自分の考えを伝えたり話の要旨をまとめたりする活動を日常的に取り入れる。 ・登場人物の行動、会話、情景に注目して読ませ、暗示的に表現されている心情に気付かせる。	・日記や意見文を書く機会を授業時間だけでなく設けたり、本の紹介を行ったりする。 ・学校図書館を２週に１度は利用し、読書に親しむ機会を設ける。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校社会科）

１　社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取組における成果と課題

〇成果

・映像資料を活用したり、タブレットで調べ学習をしたりすることで、学習活動に意欲的に取り組めた。

・昨年度と比較すると、昨年度一番正答率が低かった「市の様子の移り変わり」で前年度正答率を上回った。

〇課題

・資料を読み取り、必要な情報を集めることが苦手な児童が多い。

・情報収集が困難なため、自分の考えをもつことも難しい。

・区の学力効果測定の結果は全て目標値を下回っており、領域別に見ると、「市の様子の移り変わり」、「安全を守る働き」、「生産や販売」、「地域や市の様子」の順に目標値との差が大きい。

・地理に関する問題が平均を大きく下回っている。地図帳や資料集の読み取り方を指導し、５年で学習した世界と日本の位置関係や領土についての知識を定着させる必要がある。

２　社会科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・地図記号や方位、都道府県などの理解が不十分である。既習事項の定着に課題がある。 ・資料から必要な情報を読み取ったり、活用したりする力が不十分である。	・資料を通して分かったことをもとに、自分の考えをもつことが難しい児童が多い。友達との交流において、伝わるように表現することにも個人差がある。	・自分が疑問や思ったことについてすすんで資料を集めて調べたり、興味・関心を広げ自分ができることを考えたりするなど、社会的事象への関心をさらに高めたい。
改善方針	・既習事項を定期的に復習するなど、定着させる工夫をする。 ・学習の中に、写真やグラフ、表、先人の話など、様々な資料を取り入れる。めあてにそって必要な情報を読み取らせたり、着目すべき点を確認したりして、資料の読み取りの活動の充実を図る。	・資料で読み取ったことから自分の考えをもたせるために、発問や机間指導を充実させる。 ・知識を活用するための問を設定し、既習事項を活用して自分の考えをもてるようにする。 ・自分の考えを話し合う活動を取り入れ、表現力を養う。	・児童の関心・意欲を高めるために、単元導入時に提示する資料を工夫したり、調べるための問を立てたりする。資料の工夫として、ＩＣＴによる資料配付や資料提示を積極的に取り入れていく。
改善策３年	・地図帳を使う機会を増やす。 ・フラッシュカードやミニテスト等を活用して知識の定着を図る。 ・グラフや表の読み取り方を丁寧に指導する。	・資料から読み取ったことを基に、問題について自分の考えをもたせる。 ・自分の考えを伝え合い、問題について話し合う活動を取り入れる。	・教科書の資料だけではなく、教員が教材を工夫して提示する。

4年	・地図帳を活用し、地図を正しく読み取ることができるようにする。 ・資料の読み取りを丁寧に行い、着目すべき点を理解させる。	・資料を読み取り、変化したことの背景を考えさせる。	・児童にとって身近なものを資料として提示する。
5年	・地図や資料の見方、情報の集め方を丁寧に指導する。 ・社会科における大事な言葉を丁寧に押さえる。	・比較したり、既存の知識と関連付けたりして、自分の考えをもたせるようにする。	・自分たちの生活と関連付けて考えさせることで、興味をもたせる。
6年	・資料やグラフの読み取り方、年表の見方を細かく指導する。 ・時代の流れを把握するために、時代ごとの特徴を授業の最後に自分の言葉でまとめる取り組みを行う。	・根拠をもって自分の考えを表現する話し合い、伝え合いの時間を授業内に取り入れる。	・児童にとって身近な教材や、意外性のある教材を提示して、児童の関心や意欲を高める。

令和４年度　授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校算数科）

１　算数における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

〇成果：

・デジタル教科書など、視聴覚教材を使用したり、具体物を操作したりする活動を積極的に取り入れたこにより、苦手意識がなくなってきた児童が増えた。

・朝学習や家庭学習も使いながら、基本的な計算を繰り返し練習することで、正しく計算することができる児童が増えてきている。

〇課題

・10 以上の計算、かけ算九九など基礎となる計算が定着していない児童がおり、その後の計算で正しい解答が導き出せない児童がいる。既習事項が身に付いていないことが、新しい学習の妨げになっている。

・文章問題を読み取り、正確に立式、正しく解答を求めるのが難しい児童がいる。

・大田区効果測定の結果では、全領域において目標値を下回っている。特に「数と計算」領域での下回り方が著しいので、前学年までの既習事項を復習する時間を設け、確実に定着させる必要がある。

２　算数科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・量感がイメージできない。 ・基本計算の計算精度が低い。特にかけ算九九の未定着がその後の各種計算の理解に支障をきたしている。	・文章題から演算決定をし、正しく立式することができない。	・児童によって授業への参加意識に差がある。
改善方針	・反復学習および日常の生活体験に結びつけた学習をさせる。 ・繰り返し計算練習を繰り返し行い、基礎的計算の定着を図る。 ・基本的な和差計算・かけ算九九の確実な習熟を図る。 ・具体物や具体例を用いて説明したり考えさせたりする。 ・日常の生活体験に結びつけた学習をさせ、量感を掴めるようにする。 ・大田区効果測定の基礎の正当率を区の目標値まで引き上げる。	・具体物を活用して、具体的なイメージをもたせる。 ・問題解決型の学習を積極的に取り入れる。 ・数量の関係を表やグラフを用いて表す活動を取り入れる。 ・いろいろな考え方の方法を例示し、自分の考えがもてるようにする。 ・ペアなどで話し合う活動を取り入れる。 ・大田区効果測定の活用の正当率を区の目標値に極力近づける。	・楽しみながら数や図形の概念を身に付けさせるなど授業スタイルを見直す。 ・スモールステップで授業を展開していく。 ・授業の導入を工夫し、学習への意欲を育てる。 ・タブレット端末を使って、自分に合った学習を繰り返し行って行く。

改善策 1年	・ブロック操作など、具体物による計算練習に取り組む。 ・１０になる組み合わせ及び計算練習の反復練習に取り組む。	・ブロック操作などの具体物による状況把握を通して、加減の判断に取り組む。 ・和差算の混在した文章問題プリントに繰り返し取り組む。	・授業開始時に前時の既習を確認し、学習のスタートラインをそろえる。 ・スモールステップで進め、挙手の機会を保障する。
2年	・具体物などを用いて、１００がいくつ分・１０がいくつ分という表現方法やかけ算の仕組みなどへの理解を深めさせる。 ・適切な計算が用いられる場面を具体的にイメージさせ、繰り返し取り組ませる。	・問題の内容が具体的にイメージできるように、図を活用する。	・主体的に楽しみながら課題を解決できるような授業を工夫する。
3年	・図形の名称や性質について、知識として定着させる。 ・反復学習をさせて基本的学習内容を定着させる。 ・計算スキルやプリントを活用し計算、文章問題等に取り組ませる。	・自分の考えをノートに書いたり、友達同士で発表し合ったりする時間を設ける。 ・学習の内容を自分の言葉でまとめ、ノートに記録させる。	・基本的な計算方法や既習事項などを振り返る時間を設ける。
4年	・反復学習をさせて基本的学習内容を定着させる。 ・図形の名称や性質について、知識として定着させる。	・問題の文章を読ん、言葉の式にしたり、図や表に表したりすることで、式の意味を場面と結びつけられるようにする。	・基本的な計算方法や既習事項など振り返る時間を設ける。
5年	・C 児童については、取り組む問題数を減らし、基礎的な問題が確実にできるように丁寧に個別指導する。 ・宿題を活用し、その日に習ったことが確実に定着するようにする。	・文章題については、問題の意味に着目するように指導する。 ・数直線や図などの活用の仕方、また筋道を立てて説明する方法を具体的に指導する。	・既習事項を確認し、習ったことを使って解決することができることを指導する。 ・シンプルで簡単に解く方法を伝え、苦手意識をもたないようにする。
6年	・授業中に練習問題に必ず取り組み、できていない児童には個別で説明する。 ・理解が不十分な単元には、ポイントを説明し、再テストを行い、計算する力を高める。	・既習事項を使って自分の考えをまとめたり発表したりできるように、ペアで説明し合う場面を作り定着を図る。	・学習の最初に、見通しを児童に出させ、主体的に取り組めるようにする。 ・問題場面を身近な生活体験と結びつけて提示し、問題を実感をもって捉えられるようにする。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校　理科）

１　理科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

〇成果

・昨年度と比較すると、全学年で全体的に目標値を下回ったものの、５年生の知識・技能は、前年度の正答率から約２ポイント上がった。

・問題→予想→実験計画→実験→結果→考察→結論という学習過程を繰り返すことで、見通しをもって実験や観察に取り組むようになっている。

・実験や観察をする機会を多く取り入れたことで、意欲的に学習に取り組む児童が増えた。

〇課題

・大田区学習効果測定では、理科全体として区目標に対して４年は約９ポイント、５年は約９ポイント、６年は約１０ポイント下回った。観点別では、知識・技能や思考・判断・表現を問う問題について目標値との差が大きい。

・知識・技能が定着しておらず、そのため、既習事項を生かした実験の手順や条件、目的が理解できていない。

・実験結果や基礎的な知識・技能を基に判断したり、自分の考えを表現したりする力が弱い。

２　理科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・既習事項が定着しておらず、知識同士を関連付けて考えることが難しい。 ・実験の手順や条件、目的が理解できていない。	・実験結果を基に問題について考え、自分の考えを説明、表現することが難しい。	・課題意識が薄いため、自身の生活と結び付けて考えたり、学んだことを生かそうとしたりする意欲が低い。
改善方針	・タブレットや視覚教材を用いて復習や振り返り活動を継続的に行う。 ・実験や観察の正しい方法を丁寧に確認し、実験の意味や結果への理解を深めさせる。	・課題提示の段階から、既習の内容や生活経験を基に予想することや、結果から得られた考えを表現することを徹底する。 ・毎時間の学習の流れを定着させる。	・単元の導入では、ICT や実物を活用し、身近な生活と近づけて課題を捉えさせる。 ・単元の終末では学んだことを生かせる活動を設定する。
改善策３年	・一人一人が実験を行うことができるように、活動場面を多く設定する。	・実験や観察を通して、差異点や共通点を見付け、問題について自分の考えをもたせる。	・身近な生活から課題意識をもたせることで主体的に学習に取り組ませる。

４年	・復習を繰り返す。 ・既習事項と関連付けて、課題について考えられた児童を価値付け、評価する。	・課題提示の段階から、既習の内容や生活経験を基に理由をそえて予想をさせることを習慣づける。 ・実験や観察を重ねることで、自身の考えの根拠を増やすことを目指す。	・単元の導入では身近な生活と近づけて課題を捉えさせる。また、単元の終末では学んだことを生かした活動を意図的に設定する。
５年	・条件をそろえる、使用する器具、見るポイントなどの実験や観察の正しい方法について毎回丁寧に確認する。	・考察の仕方（実験の目的、結果、結果から言えること）を確認し、考察文の書き方を丁寧に押さえる。	・ICT を活用したり、実物を用意したり、自分たちの経験を想起させたりすることで興味・関心を高める。
６年	・実験の条件をそろえる、使用する器具、見るポイントなどの実験や観察の正しい方法について毎回丁寧に確認する。	・課題→予想→予想理由→実験方法→結果→考察→結論の流れを定着させる。	・ICT を活用したり、実物を観察させたりして、自身の生活経験と結び付けて考えられるようにする。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校生活科）

１　生活科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

〇成果

・一人一人に朝顔の鉢を持たせて関わらせることで、植物の生長の変化を楽しみ、観察の視点を見付けることができた。

・年間を通して植物を育てることで、植物への愛着をもたせることができた。

・学校探検を行い、学校に関心をもつことができた。

・季節ごとの遊びに感心をもち、楽しく遊ぶことができた。

〇課題

・感じたこと、気付いたことを言葉で表現することが難しい児童がいる。

・自然が少ない環境の中で、地域の自然を活用する機会を増やす必要がある。

２　生活科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・深い気付きにつながらない。	・何を見てどう表現していいか分からない児童がいる。	・学校に自然が少ない。 ・季節を感じることが難しい。
改善方針	・学校だけではなく、地域の人材や自然を活用する。 ・友達との交流を取り入れていく。	・見る視点をはっきりさせる。 ・表現の仕方を共有していく。	・地域の公園や育てている植物を 活用する。
改善策1年	・地域や学校の職員との交流を多くもつことで、より深く具体的な気付きにつながるようにする。	・観察する際、見る視点を定めたり具体的にどのように表現したりしたらよいかを示していく。	・毎日継続して植物の世話を行う ことで、成長の変化に関心をもたせる。
2年	・野菜が変化し成長していることや、日常生活の中で発見したことを紹介・発表する機会を設ける	・植物に心を寄せ、よりよい成長を願い、世話の仕方を考えたり工夫したり、町探検で気付いたことを自分なりの方法で表現したりして、それらを見て学ぶ機会をさらに増やす。	・生命のあるものとして継続的に世話をしようとしたり、町の人々や様々な場所に親しみをもって関わったりして、自分の経験を伝え合う機会をもたせる。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校音楽科）

１　音楽科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

〇成果

・技能については、簡単な聴音や階名唱や、呼吸やタンギングのための具体的な体の使い方、楽器の奏法などを毎時間繰り返すことで積み重ねている。リコーダーは教科書以外で児童に親しみのある楽曲を用意し、演奏技能向上の意欲を高めることができた。

・楽曲にふさわしい音楽表現を考えたり、工夫したりするために楽曲の気分や雰囲気を感じさせるように音楽の要素や用語を多く用いることで、表現の手段を考えたり選んだりできる児童が増えた。また、パートの役割を考えて楽器を選んだり、リズムの組合せを考えて音楽をつくったりすることもできるようになってきている。

・鑑賞については楽曲を特徴付ける音楽の要素や旋律の特徴を感じて表現するための言葉を、児童が選択して表現する形をとった。語彙に課題がある児童も、自分の感じた思いに近い言葉を選ぶことができた。

・音楽表現の意欲を高めるために、低学年では身体表現やリズム遊びを多く採り入れ、また、鍵盤ハーモニカは繰り返し練習をすることで基本となる奏法を身に付けることで楽しんで表現する児童が増えた。中・高学年では歌唱や楽器演奏の基礎的な技法の指導を積み重ねたことで、積極的に音楽表現をしようとする児童が増えた。

〇課題

・技能については　歌唱は、低学年の元気に歌うから、高学年の発声・発音・音程といったことを求められるにつれて技能の習得が難しくなる。器楽では繰り返し個人指導を行っているが、鍵盤ハーモニカ・リコーダーともにタンギングと指遣いの習得に課題がある児童がなかなか減少せず、学年が上がるにつれて個人差が開いていく。また、音符や記号の知識が定着していないため、楽譜から求められる表現を読み取ることが難しい児童が学年が上がるにつれて増えていく。さらに、読譜、拍感、技能、楽器の特徴といった基本的な知識が身に付いていない児童は、音楽づくりの活動に取り組むことが難しくなっている。

・どのような表現をするか考えたり工夫したりするためには、技能が身に付いていなければその根拠がもてない。そのため、自分がどんな表現をしているかがわからない、語彙や経験値が少ない、といったことから、どんな表現をしたいか思いや意図をもてない児童が学年が上がるにつれて増えていく傾向がある。

・鑑賞については、曲の感じを身体表現であらわすことはできるが、感じたことや聴き取った旋律の特徴や音楽の要素を言葉でうまく表現したり説明したりすることについて個人差が大きい。

２　音楽科における課題・改善策

音楽科で特筆すべき事項として、新型コロナウイルス感染防止対策により、歌唱・リコーダー等の器楽の指導が制限される状況下で、譜面台に飛沫防止シールドを取り付けるなど可能な対策を行って授業を進めている。しかし、グループ活動ができないためにお互いの音を聴き合ってアドバイスをする活動ができないため、客観的に自分の音に向き合うことが難しくなっている。改善策として、クロームブックを用いて自分の演奏を録音して聴き、どのように演奏していたか振り返る活動を行っていく。また、二つの音楽室を使って人数を分け、十分に距離を取った上で聴き合いの活動にも取り組んでく。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・歌唱は、低学年の元気に楽しく歌うから、高学年の発声・発音・音程といったことを求められるにつれて技能の習得が難しくなってくる。 ・器楽では鍵盤ハーモニカ・リコーダーともにタンギングと指遣いの習得に課題がある児童がなかなか減少しない。いずれも個人差が大きく、つまずくと追いつくのが難しい。また、打楽器等の奏法や拍感を正しくもてない児童がいる。 ・音楽の要素や曲想を表す用語や読譜が定着せず、鑑賞の視点をもてない。	・学年が上がるにつれて、読譜や技能、拍感やリズム感の習得の困難さや語彙の少なさから、自分なりの表現方法を工夫することが難しい児童が増えてくる。 ・音楽を聴いて曲想を感じることはできるが、音楽の要素や曲想を言葉で表現することが難しい。	・低学年では楽しもうとする気持ちが高ぶると乱暴な歌い方になったり楽器の奏法が雑になったりしがちである。また、高学年になるほど、多人数での合奏や合唱では音楽表現をするが、一人では音楽表現を恥ずかしがる傾向がある児童が増えてくる。

改善方針	・歌唱・器楽ともに基本的な奏法や読譜を繰り返し練習する。また、ICT を活用し、楽譜や音源をわかりやすく提示したり、個別指導を行ったりすることで技能の向上を図るようにする。 ・音楽の要素や曲想を表す言葉や用語を覚えさせ、読譜の力をつける。	・楽曲にふさわしい音楽表現をするためにどうしたいか、どのような奏法を使うかなど、考えたことを伝えられるように身体表現の方法や語彙を増やす。 ・音楽を聴いて感じたことや気付いたことを身体表現や音楽の要素をもとにした言葉で表現できるようにする。	・音感や歌唱・楽器演奏など、音楽表現をするための意欲と自信の根拠となる技能を低学年から段階的に高める。
改善策1年	・声も楽器であることを根気強く指導し、歌唱や鍵盤ハーモニカの演奏は、拍を考えて反復練習を積み重ねるようにする。 ・打楽器の奏法は、範奏を見せたり、リズムや拍を打つ様子を互いに見せ合ったりする。 ・階名唱など、簡単な楽譜を読むことを繰り返し練習させる。	・どんな表現をしたいか考え、身体全身で表現する、のびのびと自分の考えを発表するなど、交流する場を設定する。 ・鑑賞の視点を事前に確認してから、音楽を聴いて感じたことを、身体表現をしたり、低学年の言葉と音楽の言葉で結びつけて表したりする活動をする。	・歌や演奏を聴き合ったり認め合ったりする機会を多く設け、進んで学習に参加できたり、できるようになった達成感を認めたりすることで、楽しんで学習に取り組むことができるようにする。
2年	・音程を意識して階名唱をしたり、鍵盤ハーモニカの演奏を繰り返し指導したりして、技能の習熟を図る。 ・打楽器の基本的な奏法の習得を通して、拍感を身に付けさせる。 ・階名唱を繰り返し行い、簡単な楽譜を読むことと合わせて、音楽の要素や曲想を表す単語を意図的に提示する。	・どんな表現をしたいか考え、身体表現をしたり、のびのびと自分の考えたことを表現したり、友達のまねをしたりする機会を与える。 ・鑑賞の視点を事前に確認してから、音楽を聴いて感じたことを、身体表現をしたり、低学年の言葉と音楽の言葉で結びつけて表したりする活動をする。	・友達の歌や演奏を自分のものと聴き合い、認め合う機会を多く設け、音楽表現の楽しさを感じさせることで意欲的に学習に取り組むことができるようにする。
3年	・歌唱は自然で伸びやかな声で歌うため の体の使い方を身に付けさせる。リコーダーはタンギングや基本的な指遣いを繰り返し指導し、必要に応じて個別指導も行う。各楽器の音の特徴を理解し、奏法を身に付けさせる。 ・階名唱や視唱を行い、楽譜上の音と実際の音の関連を意識させる。	・範唱や範奏や楽譜から楽曲の特徴を感じ取り、自分でどう表現したらよいか音楽の要素と結びつけて考えられるような選曲や楽譜の提示をする。 ・音楽を聴いて感じ取ったことを音楽の要素と結びつけて表現できるために、ワークシートや教室掲示の工夫をする。	・階名唱や視唱、リコーダーの演奏や読譜を繰り返し練習させ、特にリコーダーは個別指導をすることでやればできるという意欲と自信がもてるようにする。
4年	・歌唱は発声や発音に気を付けて伸びやかな声で歌えるように体の使い方を指導する。リコーダーは基本的な奏法やサミングが使われる音域の運指の指導を繰り返し行う。合奏を通して様々な楽器の奏法を身に付けさせ、音楽の種類ごとのリズムや拍の取り方の違いを感じさせる。 ・階名唱や視唱を行い、楽譜上の音と実際の音の関連を意識させる。	・楽曲の特徴を感じ取り、どう表現したらよいか音楽の要素と結びつけて、友達と意見を交換する活動を多く採り入れる。 ・音楽を聴いて感じ取ったことを音楽の要素と結びつけて表現できるために、鑑賞教材の提示の仕方やワークシートを工夫する。	・互いに練習の成果を聴き合ったり、教え合ったりすることで、友達と積極的に関わる時間を設け、音楽表現をする事への意欲と自信をもたせるようにする。
5年	・発声や発音の基礎練習を行い、体の使い方を体得させるようにする。楽器の基本的な奏法は繰り返し指導し、必要に応じて個別指導を行う。また、児童が興味をもてる楽曲を採り入れ、取り組みやすくする。	・範唱や範奏や読譜から音楽の特徴を音楽の要素と関連させて感じ取り、自分の表現に生かすために楽譜への書き込みやグループでの意見交換を多く採り入れる。	・個別の課題を明確にして歌唱や楽器の練習に取り組ませ、できることを増やすことで音楽表現への意欲や関心を高める。
6年	・階名唱や読譜を通して音楽の要素や楽曲の特徴や曲想を表す言葉を繰り返し指導する。	・音楽を、曲想の変化や特徴を音楽の要素と関連させて聴き取ったことを表現するために、鑑賞教材の提示の仕方やワークシートを工夫する。	

6年	・発声や発音の基礎練習を行い、頭声発声のための体の使い方を体得させるようにする。楽器の基本的な奏法は繰り返し指導し、必要に応じて個別指導を行う。また、児童が興味をもてる楽曲を採り入れ、取り組みやすくする。 ・階名唱や読譜を通して音楽の要素や楽曲の特徴や曲想を表す言葉を繰り返し指導する。	・範唱や範奏や読譜から音楽の特徴や物語性を音楽の要素と関連させて感受し、自分でどう表現するか考えるために、楽譜への書き込みやグループでの意見交換や発表を多く採り入れる。 ・曲想の変化や特徴を音楽の要素や学習したり、生活の中で聴いたりした音楽と関連させながら聴き取ったことを表現するために、鑑賞教材の提示の仕方やワークシートを工夫する。	・個別の課題を明確にして歌唱や楽器の練習に取り組ませ、楽曲を仕上げることで達成感をもたせ、音楽表現への意欲や関心を高める。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校図画工作科）

１　図画工作科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

〇成果

・用具や材料の適切な扱い方や、参考作品を大型スクリーンに拡大して見せ、指導をすることで、すすんで表現を工夫する児童が増えた。

・板書では、活動の流れと学習のめあてを明確に掲示し、児童が見通しをもって活動に取り組むことができた。

〇課題

・主体的に学習に取り組み、意欲的に取り組むことが難しい児童がいる。

・のこぎりや電動糸のこぎりを扱った、木工作の題材の経験ができていない。

・絵の具の混色などの技能面では定着が見られるが、何をかくか考え発想することが難しい児童がいる。

・鑑賞した作品からそのよさを感じ取り、自分の表現活動の参考にしようとする意識の少ない児童　がいる。

２　図画工作科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・対象や事象を捉える造形的な視点が、学年相応に育っていない児童がいる。 ・材料や用具の使い方について、定着に個人差があり、創造的な表現までは結びつかない児童がいる。	・対象の形や色の感じなどから造形的なイメージをもち、そのよさや美しさ、表したいことや表し方などを考え、発想や構想をすることが難しい児童がいる。 ・鑑賞した作品などから、そのよさを感じ取り、自分の見方を広げたり深めたりすることが難しい児童がいる。	・つくりだすことに楽しさを感じ、進んで意欲的に表現したり鑑賞したりする活動が、なかなかできない児童がいる。 ・表現に難しさを感じた際に、投げ出してしまう児童がいる。
改善方針	・各題材で扱う用具や技法を指導し、繰り返し確認することで、表現活動を通して技能の定着を図る。 ・表現活動を通して、形や色の特徴を理解する造形的な視点を育て、用具や材料の使い方を工夫し、自分らしく創造的に表現できるようにする。	・いろいろな材料や素材を触ったり試したりする機会を増やし、材料や用具、表現方法を考慮することで、どのように主題を表すか考える力を養う。 ・題材に合わせて幅広い作品の鑑賞を行い、自分の見方や感じ方を深め、新しい見方や感じ方をつくりだすことができるようにする。	・材料や素材の見せ方やそれらを与えるタイミングなどを考慮し、児童が興味・関心をもち、活動や作品のイメージがしやすいように工夫する。 ・鑑賞の時間を、授業の中に適宜設定し、自己の表現活動の参考にし、より良い表現をする意欲が高まるように指導する。
改善策１年	・材料を使ってつくるときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付くようにする。 ・はさみ、のり、絵の具等の道具は、使い方を確認しながら、繰り返し使っていくことで定着させる。	・すすんで表したいことを見付けられるよう、材料を選択できるようにする。 ・友達と作品を見合うことで、自分の見方や表し方を広げるようにする。	・表したいことについて話したり説明したりする交流の時間を取り、自分のイメージを主体的に表現させる。 ・友達と作品を見合うことで、よいところを自分の作品に生かせる時間を取り入れていく。

2年	・材料を使ってつくるときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付くようにする。 ・ボンドやのりを使った素材の接着や、絵の具に混ぜる水の調節を繰り返し確認し、使い方を定着させる。	・材料と関わる時間を十分に設けて、児童が自分のイメージをもちながら思い付いた表現を試すことができる場を設定する。 ・鑑賞の時間を通して、自他の作品に関心をもち、お互いの感じ方や考えのよさを認め合い、自分の見方や感じ方に活用するようにする。	・児童にとって身近なテーマや材料を取り上げ、主体的に表現できるようにする。 ・それぞれの表現のよさを全体で共有することで、つくりだす喜びを味わいながら取り組むことができるようにする。
3年	・絵の具や用具の基本的な扱い方を定着させる。 ・様々な太さの筆や、カラーペンなどの用具を必要に応じて使用することで、表現の幅が広がるようにする。 ・段ボールカッター、金づちなどの用具を定着させ、用具の適切な扱いに慣れるように指導する。	・教師がつくって見せ、いろいろな材料や素材を、触ったり試したりさせることで、作品のイメージへと結び付けられるようにする。 ・材料の表し方を試す時間を設定し、表しながら自分の表現の思いを膨らませられるようにする。	・材料や素材の提示の仕方やそれらを与えるタイミングなどを考慮し、児童が興味・関心をもち活動できるようにする。 ・授業の中で、参考作品や友達の作品を鑑賞する活動を設け、造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方を見つけ、自分の表現活動の参考にし、表現の意欲の向上に役立つようにする。
4年	・絵の具や用具の基本的な扱い方を定着させ、モダンテクニックなどの技法を指導し、絵の具を使った表現の幅を広げる。 ・スポンジや網、ブラシ、刷毛などの用具を、自分の表現したいことに合わせて工夫して表現できるように指導する。 ・のこぎり、金づち、彫刻刀、カッターなどの用具の適切な扱いに慣れるように指導する。	・絵の具のモダンテクニックを使った模様の紙づくりを行い、自分のイメージに合った表現を見つけられるようにする。 ・大型スクリーンを使っての実例指導や板書を活用して、視覚的に分かりやすい授業を展開し、例を組み合わせたり変化させたりすることで、発想や構想が広げられるようにする。	・材料や素材の提示の仕方やそれらを与えるタイミングなどを考慮し、児童が興味・関心をもち活動できるようにする。 ・授業の中で、参考作品や友達の作品を鑑賞する活動を設け、造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方を見つけ、自分の表現活動の参考にし、表現の意欲の向上に役立つようにする。
5年	・絵の具や用具の基本的な扱い方を定着させる。また、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを理解して表現できるような題材を設定する。 ・のこぎり、電動糸のこぎりなどの用具の適切な扱い方を指導し、児童が自分らしい創造的な表現ができるようにする。	・パステルや絵の具を重ねる絵の題材を通して、つくりながら発想を広げる姿勢を養わせる。 ・アルミ線を使った立体の題材を通して、形を変化させながら自分の表したいイメージを持つ力を養わせる。 ・大型スクリーンを使って、実例指導を見せ、板書を活用して視覚的に分かりやすい授業を展開し、自分の表現の見通しがもてるようにする。	・作りながら考える題材を設定し、段階的な表現の流れを例示することで、児童が自分のイメージをもち、意欲的に表現をすることができるようにする。 ・友達の作品や参考作品などを鑑賞する時間を設け、造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などから興味・関心を喚起し、表現の意欲が高まり持続する指導に取り組む。

図工２

６年	・絵の具や用具の基本的な扱い方を定着させる。 ・動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさを工夫できるように、作品を言葉で捉える機会を設ける。 ・彫刻刀の使い方を確認し、のこぎり、電動糸のこぎりなどの用具の適切な扱い方を指導し、児童が自分らしい創造的な表現ができるようにする。	・ワークシートを活用し、児童がイメージを広げ、自分の発想や構想をしたことを整理し、自分の表したいテーマを見つめられるようにする。 ・大型スクリーンを使って、表現の展開や参考作品などを見せ、板書を活用して視覚的に分かりやすい授業を展開し、自分の表現の見通しがもてるようにする。	・表現のテーマや、めあてを明確にするとともに、題材で身につけたい力や活動の面白さを分かりやすく指導することで、主体的に活動ができるようにする。 ・友達の作品や参考作品などを鑑賞する時間や、児童が自ら鑑賞の対象を選択する機会を設け、造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などから興味・関心を喚起し、表現の意欲が高まり持続する指導に取り組む。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校家庭科）

１　家庭科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

〇成果

・少人数・４グループに分け、感染対策を行いながら基本的な調理実習を行うことができた。

・感染対策によって時間的確保が必要となったが、ICT・動画等を活用しながら説明を行うことで授業の効率化を図ることができた。

〇課題

・調理実習を少人数で行う感染対策のもとでの授業構成では、実習内容が限られた。動画や ICT を活用して授業を行ったが、やはり知識・技術面で十分とは言えなかった。

・継続して自分で確実に作業ができる技能が定着するように、毎学期ごとに裁縫の学習を行う必要がある。

・家庭科で学んだ知識を実際に家庭生活に生かしたり、これからの自分の成長について展望したりできる児童が少ない。

２　家庭科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・生活上の課題を解決するための知識が十分とは言えない。	・食べるための調理の計画や調理の仕方・生活を豊かにする布を用いた制作の計画や製作について問題を見出して課題を設定、考えたことを表現するする力が十分とは言えない。	・実習や体験学習には互いに協力して取り組むが、家庭生活への関心を高め、生活に活かしていこうという意欲は十分ではないため、家庭への啓発と共に、生かす方法を指導していく。
改善方針	・確実に知識・理解を定着させるために、既習の単元の知識・理解と関連付けながら学習を進める。	・他教科で身に付けた知識や視点を家庭科と関連付けて、家庭生活で活用できるように自分の生活に目を向けさせる。	・家庭で取り組む課題を与えて、家庭での協力を得ながらできる事が増えていることに気付かせ、生活で実践しようとする意欲をもたせるようにする。
改善策５年	・調理実習が一部しかできないため、ICT や動画等を活用しながら説明を細かく行う。また、調理道具など、安全で衛生的な取り扱い方なども学習での内容を関連付けながら覚えられるよう指導する。	・調べたことや体験したことから得た情報を、各自の生活や課題に応じて自分なりに考え、判断し表現できるような発表し合う場を設ける。	・授業での学習が家庭での生活に活かせるように、ワークシートや資料の活用・家庭での調べ学習等に取り組ませる。

６年	・調理実習が一部しかできないため、ICT を活用し、動画や学習ソフトを使用して５年時の栄養素の学習と関連付け、食品の分類を再確認しながら学習を進める。また、昨年度の授業時数不足分も効率化を図りつつ補っていく。	・調べたことや体験したことから得た情報を、各自の生活や課題に応じて自分なりに考え、発表することができるような場の設定と十分取り組むことのできる授業内容を取り入れる。	・授業での学習が家庭での生活に活かせるように、ワークシートや資料の活用・家庭での調べ学習等に取り組ませ、家庭での取り組みを共有する場を設ける。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校体育科）

１　体育科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

〇成果

・学習カードや掲示物、動画等を用いたことで、授業のポイントや自分に必要な課題を理解し、自分のめあてに向かって運動する児童が増えた。

・友達と見合ったり、教え合ったり、学び合いをすることで、動きのポイントをより理解できるようになった児童が増えた。

〇課題

・学年が上がるごとに、技能差が顕著に表れている。

・運動量の確保について。１学期末に校庭ができたため改善されていく部分もあるが、１時間の授業の構成も工夫を継続していく必要がある。

・ポイントを意識したり、自分のめあてを考えたりしながら運動することが難しい児童がいる。

２　体育科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・運動の技能差が大きい。 ・健康で安全な生活について学習した知識を、自分たちの生活に生かすことができない児童がいる。	・運動の動き方やポイントを知り、自分の力に合った課題を選ぶことができていない。	・勝敗を受け入れたり、お互いを認め合ったりする態度を身につけさせる必要がある。
改善方針	・休み時間には積極的に外遊びや体育館遊びをするよう学校全体で取り組んでいく。また、スモールステップで指導していく。 ・自分たちの生活について振り返らせ、身近なことを用いて自分事として捉えさせる。	・友達と見合ったり、教師が声をかけたりして、ＩＣＴを活用したりして、よい動きや運動のポイントについて理解させる。	・望ましい態度の児童を称賛し、クラス全体でも共有していく。また、安全面については怪我につながる恐れがあるので、厳しく指導する。
改善策１年	・教師が説明する時間を極力減らして、運動量を確保する。 ・腕支持や逆さ感覚など身体の感覚 を身に付ける準備運動や活動を取り入れる。	・友達と動きを見合う場面を作り、よい動きを見付けられるようにする。 ・運動遊びにおいて、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を提示して選ばせる。	・児童がやってみたいと思えるような運動遊びを提示する。 ・安全に楽しく運動するためのルールを最初に提示し、ルールを守れている児童を褒める。
２年	・基礎となる動きの活動は、毎時間確保することで、技能の定着につなげる。	・全体やグループ内で、友達の演技から学ぶ機会を設ける。 ・作戦タイムなどを通して、話し合い、考える場を設ける。	・学習後に「楽しかった、またやりたい」と思えるような授業展開の工夫をする。

3年	・学習カードや掲示物などを活用し、児童それぞれが自分に合っためあてをもてるようにするとともに技能向上のためのポイントを理解させる。	・友達のよい動きを見付けたり、励まし合ったりすることができるようにする。	・スモールステップを踏んだ学習活動にする。苦手な児童が少し頑張ればできそうだという気持ちをもてるように授業を組み立てる。
4年	・学習カードや掲示物などを活用し、自分にあっためあてをもつとともに技能向上のためのポイントを理解させる。	・友達のよい動きを見付けたり、励まし合ったりすることができるようにする。	・スモールステップで誰でも取り組みやすい運動から取り組ませる。
5年	・事前に「できるポイント」「できないポイント」を動画や手本で見せることで、具体的に理解できるようにする。	・体育ノートで振り返りをさせる。ポイントをどのように意識してやってみてどうだったかを具体的に書かせることで、自己解決へつなげる。	・安全に楽しく運動できるよう場の設定をしたりルールを工夫したりする。
6年	・技能が高い児童を手本として見せたり、動画を見せたりすることで視覚的にイメージをもたせる。 ・主運動につながる感覚づくりの運動を多く取り入れる。 ・けがの防止や心の健康について、生活リズムや自分の体験とつなげて指導する。	・学習カードを活用し、運動で工夫したところ、次回頑張りたいことなどを振り返らせる。 ・タブレットを活用して運動のポイントを示したり学び合いをしたりすることで、課題を解決できるようにする。	・単元の最初にオリエンテーションを行い、めあて、学習の流れ、安全面の配慮についての指導を行う。見通しをもたせて学習させる。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校外国語）

１　外国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

〇課題

・英単語は発音できるが、正しい英文を発音することは難しい。

・「やりとり」については、コロナ禍で音声活動に制限もあり難しかった。

〇成果

・身近で簡単な単語（色、食べ物、数字、曜日、施設など）について理解している。

・身近な話題の日常会話を聞いて内容を理解している。（誕生日、好きな教科、好きなスポーツ、できること・できないことなど）

・英語を書くことについてとても意欲的である。

２　外国語科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・英文として発音することはできていない。	・どのような表現を用いれば相手に伝わるか、考えながら話すことはできていない。	・英語が好きな児童と好きではない児童の差が開いている。
改善方針	・繰り返し発音することで、文としての音声やリズムに慣れさせる。	・様々な表現の方法や話型を提示しながら、どの表現を使うか児童に選択させる。	・必要性のある会話を用いて、どの児童にもコミュニケーションの楽しさを味わわせる。 ・ICT を活用しながらネイティブの発音を聞き、自分の思いや考えを英語で表現させる。
改善策５年	・繰り返し発音することで、定着させる。	・様々な表現方法を提示しながら、楽しく発音させる。	・必要性のある会話場面を設定し、どの児童にもコミュニケーションの楽しさを味わわせる。
６年	・簡単な英文を書くことを通して、発音を確認させ、定着させる。	・様々な表現方法や話型を提示しながら、どの表現を使うか児童に考えさせる。	・必要性のある会話の内容を考えさせ、どの児童にもコミュニケーションの楽しさを味わわせる。